

P81・C-3 薬円台／高幢庵

市指定史跡

見学自由

藥円台 高幢庵の開祖の墓

かん しん はか つけたり もく ぞう じ ぞう ぼ さつ ざ ぞう
観 信 の 墓 附 木 造 地 蔵 菩 薩 坐 像

もくじき
観信は江戸時代の木食行者の
一人で、薬台台に高幢庵を開き、
こうとうあん
この地で享保11年(1726)に亡く
なりました。ここに墓石と位牌があ
るほかは、観信についての伝記
は知られていません。

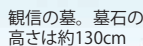
墓は高さ約130cmの樟石で、
「開山こんのだいそうず権大僧都理性院阿闍梨あじゃり木
食観信 享保十一丙午歳七月」
と刻まれています。しかし位牌には
「権大僧都阿闍梨理性院木食観
信不生位 享保十一丙午天八
月六日」とあり、没年の月日に違い
がみられます。

地蔵菩薩は一木を荒々しく削って作られた、力強く素朴な作風の像で「木っば地蔵」と呼ばれています。風雨にさらされて露仏となっていたせいかな状態は悪いですが、現在は観信の墓の隣の小堂に安置されています。

■「薬園台」の地名の由来

菓園台の地名は、江戸時代八代将軍徳川吉宗の命により、ここ下総国滝台野に菓草園が作られたことに由来している。菓草園は成功に至らなかったが、「菓園台新田」という名が残された。昭和48年(1973)に地名表記が「菓円台」に変更され、現在では菓園台町のほか、新京成線菓園台駅や千葉県立菓園台高等学校の名称などに旧地名の名残がある。

▲「木つば地蔵」と呼ばれている
木造地藏菩薩坐像



所 船橋市薬円台1-1 ☎ 047-436-2898 (船橋市教育委員会 文化課)

交 新京成電鉄 薬園台駅から徒歩5分 **指** 昭和40年3月17日

薬円台・三山エリア

江戸時代の三山近在の俳人たちが奉納

齋藤その女等奉納句額

二宮神社の拝殿内正面に掲げられたこの句額は、大穴の齋藤その女、田木ノ井(田喜野井)の歟賀、正伯(薬円台)の林中など、三山近在の俳人たちが主催者になり、選者に江戸の俳人孤山堂卓郎などを迎え、文久3年(1863)に奉納されました。これは江戸の工人野川法眼平朋郷が装飾し、彫刻した立派なものです。その女の名前は、主催者中の最長老として「八十二老その女」と刻まれています。俳句の奉納者は、二宮神社の注連下21ヶ村の村民や2~3人の江戸・市川の者、合わせて80人になります。

なお、その女については墓所(P65)も史跡に指定されています。

(額の句の一部) ○汲てゆく 跡も濁らぬ 清水かな 歟 賀
○風よりも 涼しき庵よ もりのうち 林 中
○春もまだ 汲てなのみぞ 庵の月 その女
○移る燈の 雨にながるる 柳かな 卓 郎

薬円台・三山エリア



▲句額は天地が107cm、左右が376cm。ケヤキの一枚板でできている

▶平成9年度に修復された句額の一部

所 船橋市三山5-20-1
(二宮神社)
☎ 047-436-2898
(船橋市教育委員会文化課)
交 JR津田沼駅北口から
二宮神社行きバスで
終点下車
指 昭和55年10月23日
【地図は右ページ参照】



P81・D-4 三山／二宮神社 市指定有形文化財(建造物) 見学自由

当時の宮大工の技術がうかがえる、貴重な建築

二宮神社社殿



社殿の平面形式は江戸時代に流行した権現造

薬師台・三山エリア

二宮神社は、社伝によると弘仁年間(810～824)の創立だといわれており、社殿の平面形式は権現造です。神社の棟札や各部の建築様式からも、安永年間(1772～1781)に再建されたものとされています。社殿には本殿、幣殿、拝殿があり、本殿は大正11年(1922)10月に、拝殿は大正14年(1925)8月に、それぞれ茅葺屋根を銅板葺きに葺き替えています。



社殿入口の梁に飾られた彫刻

この神社は正面の鳥居から参拝するのが正しいとされています。正面の鳥居をくぐると、参道はいったん低くなり、谷を横断して進むかたちになります。そして石段をのぼっていくと徐々に拝殿が姿を現し、のぼりきったところではじめて拝殿の全景が見えるようになっています。大工棟梁の社殿の見せ方への工夫が感じられるデザインです。

本殿の全体を飾る彫刻、軒の組物や腰組も、当時の宮大工の高い技術が発揮された意匠、造作となっています。

所 船橋市三山5-20-1

☎ 047-436-2898 (船橋市教育委員会 文化課)

交 JR津田沼駅北口から二宮神社行きバスで終点下車

指 平成4年2月27日



P81・D-2 薬円台／郷土資料館 市指定有形文化財(考古資料) 展示については要確認

全国で二例しかない極めて貴重な考古資料

瑞花双鳳五花鏡・梅花文鏡筥 (残欠)

薬円台・三山エリア



▲印内台遺跡群から出土した
瑞花双鳳五花鏡の鏡背



▲瑞花双鳳五花鏡の鏡面。青銅製
で面径11.8cm、重量240.7g



▲梅花文鏡筥。木製で縦10.4cm、
横11.2cm、最大厚0.7cm

船橋市西部の台地上に広がる印内台
遺跡群。古代～中世にかけての遺跡で、
船橋市を代表する遺跡です。平成12年
(2000)に行われた発掘調査でこの遺跡から出

土したのが「瑞花双鳳五花鏡」と「梅花文鏡筥」。鏡は筥に納められ、脇を下
にして手足を折り曲げた姿勢(側臥屈葬)の遺体の脇に添えられていました。

瑞花双鳳五花鏡は、文様の特徴から12世紀前半に制作されたものと考
えられています。鏡は一般的に文様名と鏡式名を組み合わせで名付けられ、
この鏡は鏡背(裏面)の文様が「瑞花双鳳文」、鏡式が梅花をかたどった日
本独特の「五花鏡」のため、そう呼ばれています。

梅花文鏡筥は木製漆塗りの筥で、もともと円形の蓋と身が組み合う合子
状の筥だったと考えられ、鏡と密着していた蓋の一部分だけが奇跡的に残
ったものです。蓋の表には梅花文が20個ほど散らされ、この文様から12世
紀前半頃に制作されたと考えられています。

これらの資料は、船橋の歴史を知る上だけにとどまらず、考古学や工芸
史においても注目を浴びる重要な資料です。五花鏡と当時それを納めてい
た筥がともに現存する例は、船橋のものを含め、現在、二例しか知られて
いません。

所 船橋市薬円台4-25-19 ☎ 047-465-9680 (船橋市郷土資料館)

📍 新京成電鉄 習志野駅から徒歩10分 📅 平成17年7月25日 【地図は右ページ参照】

P81・D-2 薬円台／郷土資料館 市指定史跡 見学自由

明治天皇より「習志野ノ原」の名を賜った地

ならし の ち めい はっ しょう ち

習志野地名発祥の地

つきたり めい じ てん のうちゅうひつ の ところ ひ
附 明治天皇駐蹕之處の碑

現在の習志野台・高根台の一带は、かつてこがねはら おおわだはら小金原・大和田原といわれ、江戸時代には幕府の牧（馬の放牧場）の一部でした。その後、明治7年（1874）～昭和20年（1945）までは陸軍の演習地とされていたところです。

明治6年（1873）4月29日、明治天皇は徳大寺宮内卿、西郷隆盛、篠原国幹ほか多数を従え、薩摩・長州・土佐の兵からなる四個大隊2800人の近衛兵を率いて、このえへい県下に初めて行幸されました。その夜激しい風雨のなか原野の幕舎に野営され、翌30日に天覧演習が行われました。天皇は5月1日に皇居（赤坂仮御所）に還御されましたが、5月13日、天皇より勅諭をもって、この原に「習志野ノ原」の名を授けられました。

郷土資料館建物の横にたてられたこの碑には、裏面に明治天皇がこの地に露営して演習を統監されたこと、この地が演習に適すると認め、永く陸軍操練場と定めたことが記されています。

（※この碑は習志野台4丁目のみゆき町会会館の脇にあったものを郷土資料館の横に移転したものです）



所 船橋市薬円台4-25-19

☎ 047-465-9680（船橋市郷土資料館）

交 新京成電鉄 習志野駅から徒歩10分

指 昭和43年12月19日



▲碑は仙台石製で 高さ3.9m、幅1.6m

薬円台・三山エリア